

ぷく いっ福しませんか



石見さくら会居宅介護支援事業所

☎ 0855-95-3262

暦の上では立秋を迎えるころ、秋の涼しさが待ち遠しく感じられます。今年の夏は最高気温を各地で更新するなど猛暑となっています。皆さま、夏バテせずお過ごしでしょうか？適度にエアコン、扇風機を使用して水分もしっかりと摂りながら熱中症には充分気をつけてお過ごしください。さて、8月はお盆という行事がありますが、お盆の始まりについて皆さんご存じでしょうか？このお便りを配布するころはお盆も過ぎていると思いますが…いっぷくしながら読んでみて下さい。

お盆の語源と意味由来は・・・目連尊者の物語！ ...参考文献「日めくり大人稼業」より

お盆の正式名称は盂蘭盆会

「お盆」の正式名称は「盂蘭盆会（うらぼんえ）」といます。

名前の由来は諸説あるようですが、サンスクリット語で「逆さ吊り」を意味する「ウランバナ」の音写であるとする説が有名。音写とは、耳で聞いた事を文字にしたようなものです。その言葉の意味で訳すのではなく、発音で訳し「うらぼんえ」と言われるようになったようです。

お盆の由来は目連尊者の行事から

お盆の行事はお釈迦様の弟子の一人、目連尊者（もくれんそんじゃ）が母を救うお話しに由来しています。

お釈迦様の弟子の一人である目連尊者は神通力の第一人者。神通力というのは、普通の人を持たない特殊な能力のことです。

あるとき目連尊者は神通力によって、亡き母が地獄に落ち逆さ吊にされて苦しんでいると知りました。飲み食いもできず、目連尊者が鉢に盛ったご飯を差し出しても、母親がご飯を食べようとすると、口に入れる前にご飯は灰になってしまうのです。目連尊者は「どうようにしたら母親を救えるのでしょうか」とお釈迦様に相談するとお釈迦様は「母上の罪は重かったようで、あなた一人の力ではどうにもできません」と諭したあと「修行僧達が夏安居（げあんご）の修行を終える7月15日に彼等を招き、たくさんのご馳走をしなさい。心から供養すれば父母も先祖も親族も三途の苦しみから逃れることができ、時に応じて解脱し、衣食には困らないでしょう」とおっしゃいました。夏安居というのは、お釈迦様がいらっしゃった当時のインドで僧侶たちが雨季の3ヶ月間、一切の外出をせずに修行することです。



目連尊者がお釈迦様の教えのとおりにしたところ、その功德によって母親は無事に極楽往生がとげられました。無事に母親を救うことができた目連尊者は感激し、この慣わしを後々までに残したいとお釈迦様に申し出ます。

お釈迦様は、「夏安居の終了する7月15日にいろいろな飲食を盆に盛り、同じように仏や僧や大勢の人たちに供養すれば、その功德によって、たくさん先祖が苦しみから救われ、今生きている人も幸せを得ることができるでしょう」と、おっしゃいました。これが、お盆行事の始まりと言われています。

このお話は、7世紀ごろに中国から日本へ伝わったようです。中国仏教の思想と日本の古来からある祖霊信仰(ご先祖様に感謝する心)が融合し、日本独自のお盆の形になったといわれています。旧暦の7月15日に近い8月15日などに「盂蘭盆会」が行われるようになり、亡くなった方や先祖に報恩感謝をささげ、供養をつむ重要な日となりました。



宗派や地域によってお盆の風習が違う事もあります。西日本は全般的に8/13～15がお盆の時期のようです。隣の広島県西部では、お盆になると赤や黄色の紙で作られたカラフルな盆燈籠をお墓の周りに立ててあるのを見かけますが、この盆燈籠が、お供えされるようになったきっかけは、江戸時代に遡るようです。

広島城下町に住んでいた紙職人の夫婦が、亡くなった娘のために石灯籠を建ててやりたかったのですが裕福でなかったため竹をそいで紙を張り灯籠として供えたことが由来と言われています。
※諸説あり（しょーさんのブログより抜粋）



